令和6年度第1回尼崎市環境審議会（総会）

日時 : 令和7年3月10日（月曜日）午後2時00分から午後4時00分まで
場所 : 尼崎市役所中館8階8-2会議室（Web会議システム併用）
出席委員 : 9人
傍聴者 : なし

○開会

- ・定足数の確認
- ・資料確認

○局長挨拶

事務局 :

経済環境局長からご挨拶させていただきます。

経済環境局長 :

審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。まず皆様には尼崎市環境審議会委員にご就任いただきまして、心より感謝を申し上げます。また、委員の皆様には、平素より本市の環境行政に格別のご理解ご協力を賜り、この場をお借りいたしまして、厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

本審議会は、公害対策に加え、地球温暖化問題などの新たな課題について調査審議するため、昭和47年に設置しました尼崎市公害対策審議会に変えまして、平成6年から設置しておりますが、これまでにご審議いただきました内容につきましては、本市の環境行政に幅広く生かされているところでございます。

特に昨年度は環境政策の道筋となる環境基本計画についてご審議いただきましたが、おかげさまで今年度から新たな計画のもと、取組を進めることができしております。

さて、国の脱炭素先行地域に指定されました阪神タイガースファーム施設、いわゆるゼロカーボンベースパークが3月1日に開業いたしました。球場そのものも素晴らしいのですが、駅から球場までの動線に加えまして、球場の周りを散歩される方を視野に入れた脱炭素の啓発について、環境創造課の職員が工夫を凝らす中、手前味噌で恐縮ですが見事なデッキとなっておりますので、機会がございましたら一度ご覧いただければというふうに思っております。そして、今回の見直しでは、この阪神タイガースファーム施設のオープンを契機に、さらなる脱炭素の取組を尼崎市地球温暖化対策推進計画に位置づけたいと考えておりますので、ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

最後にありましたが、委員の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻いただきますようお願いを申し上げます。簡単ではございますが、開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。どうぞ皆様、本日はよろしくお願い申し上げます。

○議事

議題1 会長・副会長の選出について

事務局：

それでは1つ目の議題です。今回は新たに委員をお願いして1回目の総会です。まず会長、副会長の選出をお願いします。条例では、選出は互選となります。委員のどなたか、ご意見等ありませんか。特にないようであれば、僭越ではございますが、事務局から提案したいと考えております。いかがですか。

- 異議なし -

ありがとうございます。

それでは、ご提案させていただきます。本市の環境基本計画、廃棄物処理基本計画、温暖化対策推進計画の策定に部会委員として長年にわたり、ご尽力いただいた尾崎委員に会長をお願いするとともに、環境基本計画の策定に部会委員としてご尽力いただき、持続可能なまちづくりへの見識が深い、田畑委員に副会長をお願いしたいと考えております。

皆さま、いかがでしょうか。

- 異議なし -

事務局：

異議なしとのことでございますので、まず、尾崎委員、お引受けいただけますでしょうか。

委員：

承知いたしました。お引き受けいたします。

事務局：

次に、田畑委員お引き受けいただけますでしょうか。

委員：

承知いたしました。お引き受けいたします。

事務局：

ありがとうございました。

それでは、次の議題へ移りたいと思います。

ここからの議事進行につきましては、当審議会条例第6条に会長が議長となるとありますので、会長をお願いしたいと思います。会長よろしく願いいたします。

議題2 尼崎市地球温暖化対策推進計画の見直しについて

会長：

それでは、議事に入りたいと思います。議題1の尼崎市地球温暖化対策推進計画の見直し

について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：

- 資料 1 について説明 -

会長：

ありがとうございました。

今回の見直し対象の計画というのは、平成 31 年策定され計画期間は 12 年、令和 12 年度を目標年度としており、令和 4 年 3 月にパリ協定以降、削減目標を高めた国の計画改定に合わせて、一部改訂を行ったものになります。

それでは、皆様にご意見、ご質問等いただければと思います。

委員：

まず一つ目は、阪神タイガースのファーム施設のオープンについてです。ニュースでも取り上げられており、注目度が非常に高く、特に阪神は全国にファンがいるため広く周知できるとともに、また、日頃あまり環境に関心がない層にも届くという点が非常に効果として大きいと思っています。この点を上手に活用し、市民だけでなく全国の来場者への啓発となればと思います。

もう一点は LCCM についてです。太陽光の導入目標がかなり高めに設定されていますが、それを踏まえて新築に狙いを定めてはどうでしょうか。尼崎市内で新築する際に LCCM のような建物が有利であることを周知できれば、住民の転入にもつながると思いますので、経済的な支援も含めて進めてはどうでしょうか。

次に、適応策としてクーリングシェルターが加筆されていますが、その他に適応策は追加されないのでしょうか。

最後に、些末なことですが、MIRAI が副市長公用車になっているということでしたが、今の市長公用車は何でしょうか。

事務局：

ゼロカーボンベースボールパークについては、たくさんのメディアに取り上げてられ、注目度が非常に高いと感じています。今後はここを脱炭素や環境の啓発の拠点として、大いに利用していく予定です。

2 点目、LCCM についてですが、市内に新築する際の優遇策については住宅部が主導で行っております。環境部としては、国等の住宅への支援が充実していることから、エコ住宅に関する支援策をまとめた冊子をお配りしているところです。

次に、適応策についてですが、今回の追記は国の法改正に対応する形で見直しを行っております。

最後に現在の市長公用車はスバルのソルテラという電気自動車です。

委員：

適応策については、防御策だけでなく、事業系の施策として新たな市場開拓という視点を取り入れていただくと、尼崎の産業の活性化にもつながることかと思っておりますので、ぜひ考え

ていただければと思います。

委員：

阪神タイガースが来てくれてとてもうれしいという話はいろんな市民の方から聞いています。ただ、阪神が来るということは知っていても、ゼロカーボンベースボールパークのことは詳しく知らない人も多かったです。そこで、ゼロカーボンベースボールパークとはどういったものかをあまがすき通信 3 月号で発信しました。また、4 月から実施予定の小学生向けの環境学習の際に阪神の選手からのメッセージ動画を活用できることになっており、野球に関心のある子どもたちにも届くのではないかと思います。

一点、質問なのですが、資料 1 の達成状況のグラフが令和 4 年度は単年度目標に収まっていますが、令和 5 年度は少し増加しているようです。増えている要因は何でしょうか。

事務局：

令和 5 年度の値は速報値であり排出係数など令和 4 年度の値を代用しています。微増の理由としてはエネルギー使用量が増えているためです。また、令和 5 年度の排出係数が公表されましたら、二酸化炭素排出量の値も変化しますので、今後もエネルギー使用量、排出係数の両方を注視していきます。

委員：

1 つ目は適応策について、今回の見直し案にはないのですが、緑化について記載があります。当時の計画改定の際も未着手との説明があったかと思うのですが、どこにどのような緑化をしていくか具体的な計画はあるのでしょうか。今後どのように進めていくかお聞かせいただければと思います。

2 つ目は、デコ活について一般市民がどれくらい知っているのか認知度みたいなものはわかるのでしょうか。

事務局：

緑化については、公園部局が昨年度策定しましたみどりのまちづくり計画において、進めております。このなかで、グリーンインフラという視点で進めていく予定となっています。

デコ活については、市でアンケートを取っているわけではないのですが、体感として、認知度は低いと感じております。テレビコマーシャルなどでもたまにデコ活が流れたりしていますが、以前のクールビズの浸透度と比べると、あまり浸透していないのではないかと思います。

委員：

みどりのまちづくり計画でグリーンインフラとして挙げられているようですが、温暖化防止の観点といますか、具体的にどこを緑化するのかという記載が必要ではないかと思います。グリーンインフラといいますが、水害を防止する緑と、生物多様性を高める緑、避暑のための緑では植える場所も変わってくると思います。

例えば、ソウルでは街路樹がとても大きく、歩道に影を作っており日傘をさす必要がありません。

適応という観点では、緑化は効果的な対策になりますので、もう少し具体的に計画に書きこめるとよいのではないのでしょうか。

事務局：

公園部局で策定しているみどりのまちづくり計画と歩調をそろえながら取組を進め、次回改定時には、具体的に書き込めればと思います。

会長：

街路樹については、近年は台風による倒木などが問題となっており、どちらかというとな伐採される流れにあります。環境部局としては直接施策を打ちにくい分野ではあるとは思いますが、公園部局と連携を図っていただければと思います。

適応策については、横断的に取り組まないといけない部分で多くあるかと思います。庁内での連携をぜひ図っていただいて、取組を進めていただければと思います。

委員：

小さなことですが、別紙の冒頭の阪神タイガースファーム施設の説明文について、ゼロカーボンベースボールパークの文言がどこにも入っていません。かっこ書きでも入れた方がアピールになると思いますので、追記したほうが良いと思います。

事務局：

おっしゃる通りかと思います。追記します。

委員：

省エネ型住宅の普及について、一般に住宅を購入する際、利便性や金額、インテリアなどが重視され、あまり環境に目を向けない方が多いかと思います。売れないのであれば、事業者も販売しませんので、まずは市民に対する啓発が重要ではないのでしょうか。

事務局：

市民への啓発については施策①エコライフの推進の中で実施していきます。

委員：

エコライフというと日常生活の中の対策がイメージされ、住宅購入の際にどう判断するかということとは違うのかなと思いました。今回の見直しでは追記されないということだと思いますが、何か項目として記載があってもよいのではないかと思いました。

会長：

今回は見直しでは環境省の方針や法律等の改正に対応する内容となっており大幅な改訂はないということで、全体的に消極的な印象を持っております。産業部門、業務部門の指標は達成しているとのことですが、達成できていない家庭部門、運輸部門について、もっとアクティブな対応を打ち出す必要があるかと思います。

二酸化炭素の排出量は、供給側の排出係数が下がることによる大幅な削減に加えて、市民

のエネルギー使用量を下げることが基本になってきます。現状のままであると、たとえ排出係数が最終目標の 0.25 まで下がったとしても、家庭部門の達成は厳しいと思います。

先ほど、デコ活についても質問もありましたが、言葉そのものを浸透させる必要はないにしても、クールチョイスからデコ活への移行には、受け身の選択から、活動としてアクティブに取り組んでもらう狙いがありますので、言葉だけを直すのではなく、何に取り組むのかということを出せるといいかと思えます。

例えば、環境省が公表しているアンケートでは、脱炭素やゼロカーボンといったことは知っているが、何をしたらいいかはわからないという結果になっています。特に、若者層の取組が低いという結果もあります。そこで、先ほど委員から案内があった環境学習も含めて、関心が薄い層にも働きかけをしてもらえればと思います。

今年度の見直しで入れていくというのは難しいとは思いますが、次の見直しに向けてはそのあたりを検討していただければと思います。

事務局：

今、ご指摘いただいたところですが、次の議題の内容と被りますが、市民の行動変容に関しては、今お示ししているゼロカーボンベースボールパークの専用サイトにもありますとおり、コラッキーというキャラクターを使って啓発をしております。ホームページのほかにも、駅から球場への道中にもフラッグなどを掲げており、来場者の目につくようになっています。市民への啓発については、今まで環境問題に興味の無かった層も取り込めるように、努力しているところでございます。

会長：

ありがとうございました。それでは他に質問無いようでしたら、次の議題に進みたいと思います。事務局より説明をお願いします。

議題3 脱炭素先行地域の進捗状況について

事務局：

- 資料2 について説明 -

会長：

ありがとうございました。議事としては報告になっていますが、ご意見、ご質問ありますのでしょうか。

委員：

三点ほど質問です。まず一つ目ですが、導入される EV バスの電気は再エネ電気を使われているのでしょうか。二つ目は、本球場には売店はあるのでしょうか。そうであればリユース食器の取組など廃棄物を減らす取組は行われるのでしょうか。三つめは選手寮兼クラブハウスの廃棄物、特に食堂などから多くの生ごみが出るかと思いますが、これらを減らす取組はあるのでしょうか。

事務局：

一点目ですが EV バスについては、再エネ電力ではありません。

二点目ですが、売店はございます。売店で使用される製品は、バイオマス素材やリサイクル素材など地球にやさしい製品を活用しております。また、ペットボトルやプラスチックカップの回収・リサイクルを実施します。その他、雨水や地下水を活用して環境負荷を少なくする取組を行っています。

三点目ですが、選手寮から出る廃棄物については、たい肥化を行うといったことは特に聞いておりません。

委員：

そのあたりについては、今後考えていってもらえればと思います。

この球場は駅直結ということですが、駅はカーボンニュートラルなのでしょうか。

事務局：

令和 7 年 4 月から阪神電気鉄道(株)及び阪急電鉄(株)の全線及び駅施設等で使用する電力をすべて実質再エネ化し、カーボンニュートラル運行が実施されます。もちろん、最寄り駅の大物駅についても、駅舎の屋根に太陽光パネルを設置しておりますし、カーボンニュートラルな駅となっています。

委員：

ずいぶん前の話になりますが、阪急電鉄(株)は確か摂津駅をカーボンニュートラルステーションとしており、路線バスも何台かバイオディーゼル燃料 100%使用のバスを運行させていました。

寮からの廃油はかなり出てくると思いますので、そのあたりの再利用も地域全体を含めて考えていけるといいかと思います。

委員：

二点質問があります。まず、PR フラッグを立てるということで、来場者の目にどれだけ留まるかはわかりませんが、ホームページなどネット上だけでなく、こういったリアルなところでも掲示して認知度を上げることが大事かと思います。その上で、定期的にアンケートを実施しながら、認知度がどの程度向上しているのか、向上していないのであれば、どのような PR 方法がよいのか方向性を変えていく必要があると思うのですが、このようなアンケートを実施する予定はあるのでしょうか。

次に、説明のなかで、CO₂ の削減効果を国に報告し、有識者から評価を受けるとありましたが、この報告の範囲はどのようなものになるのでしょうか。

事務局：

アンケートについては、令和 4 年度から実施しており、啓発効果について測定することとなっています。

国に報告する内容ですが、今画面に映しているとおり、整備に関することや、費用に関すること、計画の進捗状況、CO₂ 排出量の削減量、今後の予定など、網羅的に報告しています。

委員：

ゼロカーボンベースボールパークの特徴として、イベントが発生する、つまり、観戦客の移動や飲食に伴うCO₂の発生があるかと思います。例えば、オリンピックなどの国際的なイベントであれば、開催期間中に発生する温室効果ガスの計算なども行っており、それらも加味したうえで持続可能なイベントにしています。野球場ということで規模は違いますが、開催頻度が多いのであれば、そのあたりの対策を促していくことも必要ですし、PRにもなると思います。

事務局：

来場者の排出するCO₂排出量については、報告範囲外であり算定していませんが、本球場は車での来場をお断りしており、試合の開催日には駐車場は使えないようにしております。駅直結ですので、公共交通機関を使って来場するように、先ほどコラッキーのPRイラストにもありました通り、周知をしているところです。また、阪神電車でご来場の際は、全線カーボンニュートラルになりますので、そのあたりで来場者の移動に伴う環境負荷を低減できればと考えています。

会長：

資料にZEB Readyを目指すとありますが、この規模の建物あれば太陽光パネルを乗せる面積も確保できそうですし、Nearly ZEBを狙えると思いますが、どうでしょうか。

また、デコ活とは、個人を含め社会全体で活動していくことですから、市からも様々な啓発を行う中で、今回このZEB Readyの効果というのを市民に分かりやすく示して、新築時の配慮であるとか、既築であっても断熱リフォームなどにつながるような取組ができればよいのではないかと思います。どうでしょうか。

事務局：

まず、Nearly ZEBを狙えたのではないかと話ですが、おっしゃる通り、Nearly ZEBの認証を取得しております。Nearly ZEBに該当する建物は室内練習場とクラブハウスになります。当初、ZEB Readyを目指していたのですが、太陽光パネルも設置されている建物ですので、認証をとって見たら結果的にNearly ZEBに該当しました。

次に、市民への周知については、どれぐらいの効果が出ているかというのは何らかの形で示していきたいと思います。

また、現時点でも「家庭における再エネ・省エネ支援制度」という冊子を作成しており、エコ住宅の紹介や補助金の案内をしているところです。このあたりの啓発については、力を入れてやっていきたいと思っております。

会長：

効果の見える化みたいなものとセットで示していただければと思います。

ただ、少し聞いた話では、トイレのリフォームを頼んだら断熱リフォームも進められて、悪徳業者に騙されたのではないかと、というような、相談もあると聞きます。行政が業者選定に立ち入るのはなかなか難しいとは思いますが、市としても省エネリフォームを進めてい

るというチラシを配布するだけでも安心感が増すかと思しますので、何か後押しができるようなことを考えていただければと思います。

委員：

行動経済学的にも、やった方の声を届けるというのは非常に効果があると言われていています。やった人にこんなに良かったよと言われると、じゃあ、自分もやろうかなと思しやすいそうですので、ぜひその手法を取り入れていただければと思います。

会長：

それでは、時間も来ておりますが、最後に全体も通じてでも結構ですので、何かご意見ありますでしょうか。

委員：

最後に、少しうれしい報告としてお伝えできればと思います。4年ほど前から尼崎市の環境教育で小学校を回っておりまして、市内には41校あるのですが、初年度20校から始まり、今年度35校まで広がりました。当時、今の尼崎市長が教育長であったときに、全校実施できるように教育委員会から調整できないかをお願いしたのですが、上からの指示で強制的に実施すると、取組は持続しないのではないかと答えられたことがあります。そこから、地道に先生方に相談して、やりたいと言ってもらえる学校が増え、今ここまで来ております。

始めた当時は、この環境審議会でも効果はあるのか、子どもたちは覚えているのだろうかという意見もあったのですが、今、3年生で生物多様性の授業をして、4年生で廃棄物の授業、温暖化の授業といったように、継続して授業ができるようになってきております。顔なじみとなった児童たちも、しっかりと身について行動しているように思います。

来年度からはオープンスクールと言いまして、保護者も参加できる形でできないか、話を進めています。子どもたちが変わっていき、それを見た親も変わっていくという形で、進めていければと考えています。

少しずつ、協力してくださる先生や関係者も増えて、一緒にやっていけるようになっております。この場を借りてご報告させていただきました。

会長：

ご報告ありがとうございました。

それでは、本日皆様から頂きました意見への対応については、事務局に一任いただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

- 異議なし -

会長：

それでは以上を持ちまして、本日の審議会を終わりたいと思います。最後に事務局から何かありますでしょうか。

事務局：

本日は長時間にわたりご審議いただき、本当にありがとうございました。また、事前に資料をご確認いただき、お時間お取りしましたこと、申し訳ありませんでした。ご協力ありがとうございました。本市の環境行政事業につきましては、今後とも当審議会にご報告いたしますので、専門的見地からのご意見を賜りたく、よろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。

以上